令和5年度　自己評価書・関係者評価書

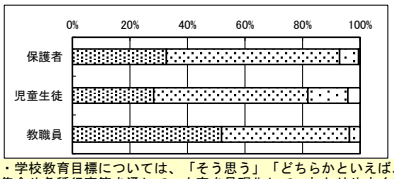
学校名　**八代市立鏡小学校**

▩４－そう思う　▨３－どちらかといえば、そう思う　▤２－どちらかといえば、そう思わない　□１－そう思わない

学校教育目標について

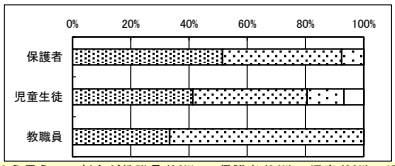
1

学校は、教育方針や教育目標等を子どもや保護者、地域にわかりやすく示していると思いますか。



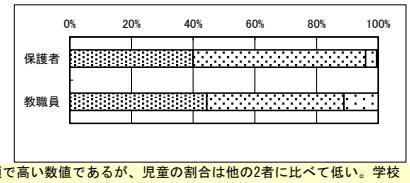
2

子どもは充実した学校生活を送っていると思いますか。



3

学校総体とし、先生方が連携・協力して教育活動に取り組んでいると思いますか。

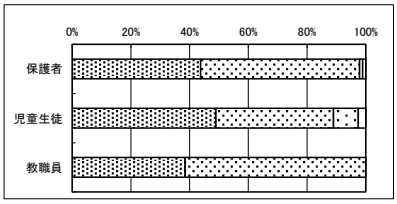


・学校教育目標については、「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合が教職員(96%)、保護者(94%)、児童(82%)の順で高い数値であるが、児童の割合は他の2者に比べて低い。学校集会や各種行事等を通して、内容を具現化して、わかりやすく示していく機会を多くする必要がある。
・２では、保護者・教職員・児童の「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の割合は昨年度と比べるとほぼ同じ割合である。児童の否定的評価が２０％あり、その原因を究明し、学校生活の充実を図る取組を進めていく必要がある。
・３では、保護者・教職員の「そう思う」の評価に伸びが見られ、教職員の「そう思う」の評価は１９％上がった。今後も保護者に対しては学校の教育活動の取組状況を様々な機会にさらに周知していく必要がある。また、様々な教育活動の中で教職員の連携・協力を深める取組を進める必要がある。

教科指導について

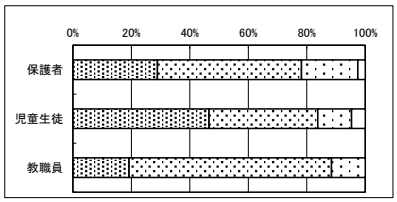
4

先生方は校内研修のテーマのもと、わかる授業、丁寧な指導・支援を行った授業づくりに努めていると思いますか。



5

子どもは意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。

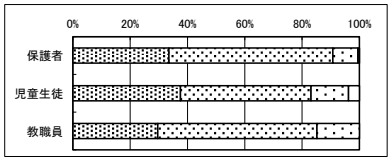


・４においては、保護者・教職員・児童の「そう思う」の割合が平均８％程度上がっている。児童の「余りそう思わない」が昨年度より６％減少しており、校内研究テーマ「生き生きと学び続ける児童の育成」を目指し、「児童が主体的に学ぶ授業づくり」を合言葉に授業改善に取り組んできたことが、一定の成果をあげることにつながったと考える。しかし、11%の児童が否定的な回答をしていることから、全ての児童にとって、「分かる・楽しい」授業となるよう、3学期より実践していく必要がある。
・５においては保護者・児童ともに昨年度と大きな変化はないが、教職員の「どちらかといえば、そう思わない」が昨年度より12%増えている。校内研修等で、児童が主体となる授業への改善に更に努める必要がある。

道徳教育　心の教育について

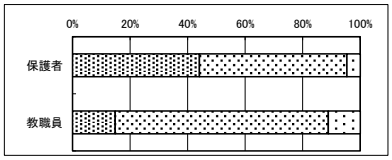
6

学校は思いやりの心や感謝の心等を大切にした指導や対応ができていると思いますか。



7

子どもは自他の命を大切にした行動ができていると思いますか。

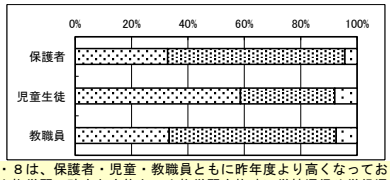


・６は、保護者・児童・教職員ともに昨年度と同じ傾向である。三者の否定的評価の平均が約14%であり、児童・教職員の否定的評価が高い。学校総体で「特別の教科道徳」を中心に思いやりの心や感謝の心等を大切にする心情や実践的態度を育む必要がある。
・７は、職員・保護者とも肯定的評価が平均で93%であり、昨年度同様に高い数値である。引き続き命を大切にする教育をすべての教育で実践していきたい。

人権教育について

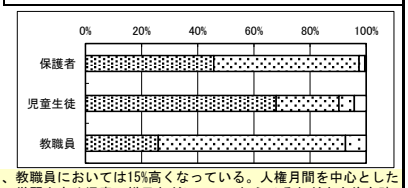
8

学校は一人一人の子どもを大切にした（人権をふまえた）指導や対応ができていると思いますか。



9

子どもは友達と仲良くしていると思いますか。

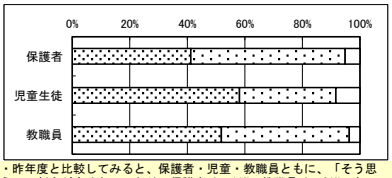


・８は、保護者・児童・教職員ともに昨年度より高くなっており、教職員においては15%高くなっている。人権月間を中心とした人権学習の確実な実施と、人権学習実施時に学校通信や学級通信で学習内容や児童の様子などについて知らせるなどを今後も確実に実施していく。また、人権学習だけでなく日常指導の中でも、児童一人一人の人権を大切にした指導を行っていく。
・９は、肯定的な評価が３者とも昨年度と大きな変化はなく90%を超えており、良好と言える。児童の中で９％が否定的な評価をしているので、引き続き「楽しい学校　笑顔広がる学校」づくりを職員と児童で実践していきたい。

学校行事について

10

学校では工夫された学校行事（運動会、文化祭など）がなされていると思いますか。

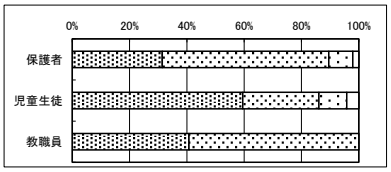


・昨年度と比較してみると、保護者・児童・教職員ともに、「そう思う」の割合が高くなっており、保護者は+11%、教職員は＋31%である。。新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり、学校行事において4年ぶりの学習発表会の開催や人数制限なしでの行事の実施等、コロナ禍でできなかったことができるようになってきたことから高い評価につながったと考える。
・教育活動がさらに充実するよう、保護者・地域の方が来校しやすい行事等の工夫や広報・工夫にさらに努めたい。

生徒指導・教育相談について

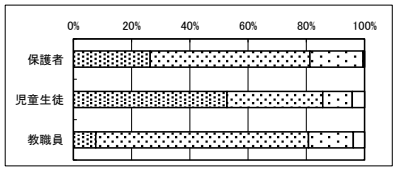
11

先生方は子どものよさを見つけ、子どもを理解しようと努めていると思いますか。



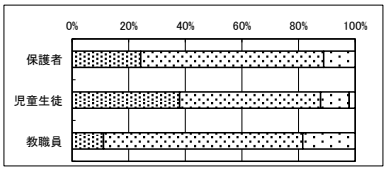
12

学校や地域で、子どもはあいさつがきちんとでていると思いますか。



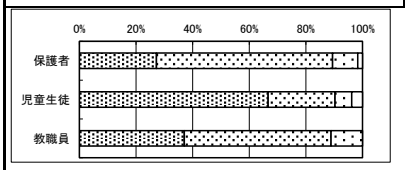
13

子どもはルールやマナーを守って行動していると思いますか。



14

学校では、いじめや不登校等に対して、事前に指導したり対応したりしていると思いますか。

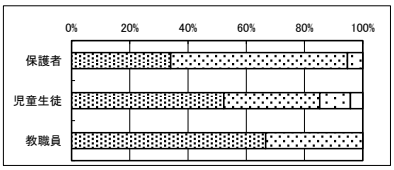


・児童理解については、昨年度と比較してみると「そう思う」と評価した割合は.三者ともに高くなっている(平均＋10%）。また、児童、教職員、保護者の順となっており、児童においては５９％と高い評価となっているが保護者は３１％となっている。今後も常に保護者と連携し、共通理解をしながら、指導にあたりたい。
・あいさつに関しては肯定的な評価としては三者に大きな差はないが、「そう思う」で比較すると、児童、保護者、教職員の順になっており、児童と教職員間には45%もの開きがあり、意識の差が大きい。児童自身は、できていると思っている子が多いが、校舎内での様子等から判断する教職員には、要求も高く、その差の広がりにつながっていると考える。教職員は校内での挨拶指導を重点的に行うとともに、保護者や地域から情報を得、連携を行いながら、継続的に指導をしていく必要がある。
・規範意識・公徳心等については、教職員の肯定的な評価が昨年度より13%あがっている。教職員が危機感を持って日々の指導を取り組んできた一定の成果があったと考える。児童の数値も昨年度よりあがっているので、教育相談や生徒指導等の取組を今後も学校と保護者が協力して行い、心の成長やケア等を含めて進めていく必要がある。
・いじめや不登校の対応については、保護者。児童、教職員の肯定的な評価が平均90%と高いが、「そう思う」で見ると、児童と保護者・教職員の意識に乖離がある。児童に高い評価が出ていることは取組の一定の成果である。
いじめ事案・不登校対応についてはこれまで同様保護者と連携して取り組むとともに、学校の取組を保護者に発信していく必要がある。

安全・健康教育について

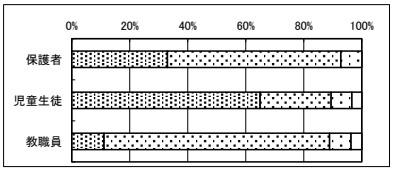
15

学校は子どもの安全と事故防止に努めていると思いますか。



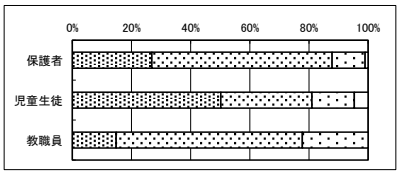
16

子どもは交通ルールを守ったり、不審者等に気をつけたりして登下校ができていると思いますか。



17

子どもは進んでスポーツ等をしていると思いますか。

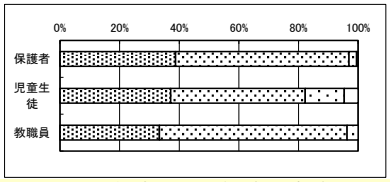


・１５において、保護者、児童は昨年度と大きな変化は見られないが、教職員においては昨年度より24%あがっている。定期的な避難訓練や安全点検を組織的に行っていることが教職員間の意識としてあると思える。児童の安全に関する意識が、「あまり思わない」「思わない」の児童が18%いる。
・１７では、「あまり思わない」「思わない」の児童の割合が19%いる。教職員の否定的な回答が昨年度より14%あがって、22%となっている。運動の2極化の流れが進んでいると考えられる。体育の授業の工夫や外遊びの推進を図るなど、児童が運動に親しめるようにする取組が必要である。
・安全・健康教育については、日常的な指導を定期的・継続的に行い、児童の意識を高めるよう充実を図る必要がある。またわかりやすい形で児童、保護者へ情報を発信することで、連携して取り組んでいく必要がある。

学校環境について

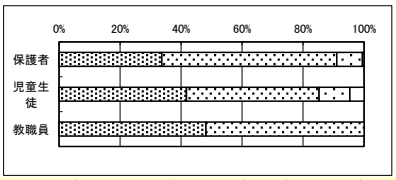
18

学校では校舎内外（掲示物や花壇等）がきちんと整備・管理されていると思いますか。



19

学校の施設・設備は安全点検をし、よく整備・管理されていると思いますか。

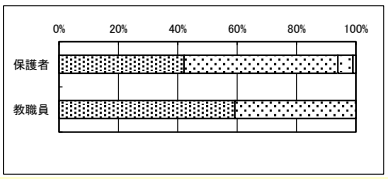


・１８について、昨年度と比べて、保護者・児童・教職員の評価には大きな変化はない。三者の中で児童の否定的な評価が18%と他の二者に比べて高い。掲示教育や掲示・緑化活動に対する取組を児童とともに定期的に行っていくことが必要である。
・１９の施設の安全については、教職員の評価が昨年度より高くなり、保護者・児童はあまり変化がない。児童の否定的な評価が他の二者よりも低いことから、児童の活動状況をしっかりと観察し、子供の視点に立って安全点検を行うことや、児童とともに校内の危険箇所等を確認する等の工夫が必要である。児童の声も参考にしながら、施設・設備の適切な使用についても指導を行い、より安全な施設管理を行いたい。

情報の公開・発信について

20

学校からの文書や通信、メール等で、学校の情報が十分発信されていると思いますか。

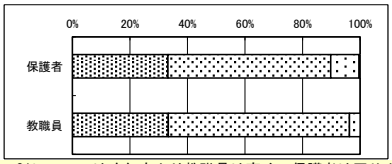


・保護者、職員とも比較的高い数値となっており、教職員においては「そう思う」の昨年度比＋27%であった。。学校としては、今後とも学校通信、学級通信、学校ホームページ、一斉メール等での情報の発信や共有に努めていきたい。

家庭・地域の連携について

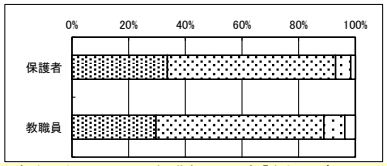
21

学校の教育活動に対して、保護者や地域の方が参加しやすいと思いますか。



22

学校は家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

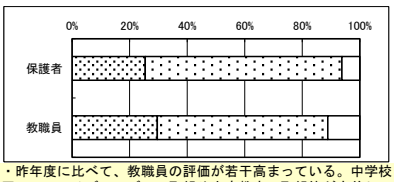


・21については昨年度より教職員は高く、保護者は同じような割合となっている。保護者の10%が「参加しづらいと」感じているので、更に工夫し、「開かれた学校づくり」を推進していく。
・22については、93%の保護者が肯定的にとらえている。新型コロナウイルス感染症が5類扱いとなり、授業参観や懇談会、PTA総会や運動会、学習発表会などの各種行事の実施方法等を検討しながら、実施してきており、次年度以降も保護者との関係を更に密にして教育活動を行っていく。

保・小・中連携について

23

学校は幼・保、小、中連携に努めた教育活動をしていると思いますか。



・昨年度に比べて、教職員の評価が若干高まっている。中学校区でのノーメディアデーの取組や家庭教育の取組等が定着してきたことが理由と考えられる。学校間だけの取組とするのでなく、家庭を巻き込んだ連携とするためにも、引き続き家庭への協力を要請していく。そのために取組の推進と取組状況の保護者への周知を強化していきたい。

来年度の具体的な取り組みについて

・学力充実の面では「児童が主体的に学ぶ」「分かる・楽しい」授業づくりために単元・本時のゴールの確認や振り返り活動の位置づけ等、授業づくりにおける共通実践事項を教職員全体で考え、共有し、全員で確実に実践していくことを徹底する。また、丁寧な指導・学習の見取り等、教職員一人一人が自分の授業を振り返り、改善を図っていく。家庭学習については家庭にも協力を依頼し、習慣化を図る。
・子供たちが安心して過ごせる学校づくりを行うために、いじめ問題等には、定期的なアンケートや教育相談を実施し、早めの発見・対応を心がけ、いじめにつながる事案には、迅速に学校組織で対応を進める。不登校対応としてSCやSSW、関係機関と協働し取組を進めていく。未然防止に力を入れるため、「愛の０（安心して過ごせる学級集団づくり）・１（電話連絡を行う）・２（家庭訪問を行う）・３（組織で対応する）運動＋１」を実践する。また、互いを思いやる学級集団づくりを心がける。
・児童一人一人の人権を大切にした丁寧な指導を行っていく。児童のよさを見つけ、児童理解に努めるとともに、児童・保護者によさを中心に伝える。児童の自己肯定感や自己有用感を高めるとともに、保護者との信頼関係を更に高めていく。
・環境整備に努め、毎月の安全点検及び衛生点検を教師の視点だけでなく児童の視点に立って、行っていく。改善箇所については素早く対応していく。環境部を中心に子供とともに花いっぱいの学校づくりを行う。
・交通安全については児童の危機回避能力を向上させるため、保健の授業や交通安全教室などを充実させ事故防止に務める。
・学校からの保護者への情報提供のあり方を工夫する。学校ホームページによる発信や学校安心メールでの情報提供など積極的に活用していく。特に行事に関しては、年間行事を学校ホームページに掲載するとともに、期日決定後は早めに保護者等に知らせていく。